

3 研究のまとめ

(1) 成果

○新学習指導要領において求められている資質・能力の明確化

学習指導要領を基に、資質・能力において定義を行いました。一年間の実践を通して、これらの資質・能力が授業場面において、どのような様相として表出されるかについて明らかにすることができました。

○授業の質的改善を図るための手立ての提案

A校とB校の教師の授業改善の過程をたどっていく中で、授業改善への実態分析、その後の授業改善に向けた計画、実践に取り組んだ後の授業分析、その後の年間を通して取り組む手立ての付加修正という一連の過程を繰り返していくことで、授業改善が図られると考えられました。

- ・ A校、B校の教師がそれぞれの指導の実態と児童の実態に合わせて年間を通して取り組む手立てを持って授業を続けてきたことにより、理科授業振り返りシートの記述が増えたり、具体性が増したりしました。これは、授業を見る目が高まってきているからだと考えます。
- ・ 年間を通して取り組む手立てを自分自身で見いだすために、理科の授業振り返りシートで児童の様子を基にしなが、授業を振り返り、授業改善の計画を立てました。これによって、自分自身で年間を通して取り組む手立てを持つことになり、主体的に改善の方策を探っていくこととなりました。これは、不断の授業改善につながるものだと考えます。
- ・ 授業改善を進める中でも、児童の実態や教師の指導実態にそぐわない授業改善を無理に進めることなく、実践授業の分析を行うことで、授業改善の軌道修正を適切に行えるようになってきています。

(2) 課題

○質的改善の手立てについての検証

- ・ 本研究では、事象提示と結果をまとめる過程での実践ができています。しかしながら、他の部分の学習過程においての実践ができていません。他の部分の学習過程についても実践を積んでいくことが望ましいと考えています。
- ・ 年間を通して取り組む手立てを見付けることができた後、具体的にどのような手法で、どのように手立てを講じて授業を構想していくかについては、本研究委員会の中で検討しながら進めてきた部分もあります。授業者自身がどのような年間を通して取り入れる手立てを取っていけばよいかの具体例を示していくことも必要であると考えます。